

至徳

射水市立金山小学校
学校だより

令和2年7月16日

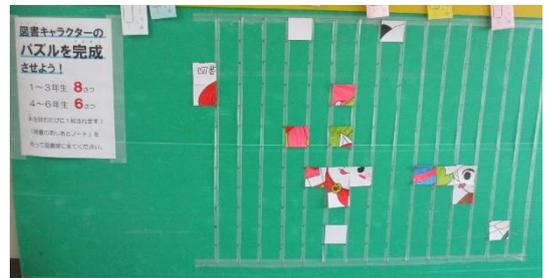
No. 12



7月に入りましたが「つゆ」が明けず、毎日のように雨模様です。7月7日の七夕の日から8日にかけて大雨警報も出ました。8日の朝学校の横を流れる下条川の水位が、今まで見たこともない高さになっていてビックリしました。降りしきる大粒の雨で視界が悪い中ですが、子供たちは元気に登校しています。ちょうど子供たちが歩いている時間帯に、もっとも激しく降ったこともありました。

このような雨の中でも、たくさんの方が、子供たちを見守り一緒に登校してくださっています。学校で子供たちが登校してくるのを安心して待つことができるのは、見守ってくださっている方々のおかげです。本当に有り難く、幸せを実感します。

雨が続くので、外であまり遊ぶことができません。そこで、図書委員会が中心となって「おすすめの本の紹介」「図書キャラクターのパズルを完成させよう」を実施しています。好きな遊びはなかなかできないかもしれませんが、このときに本をたくさん読んで、お話の世界に浸ったり、視野を広げたりして楽しむのもいいと思います。「雨が降ったときに何ができるか」「どんな楽しみを見付けられるか」を考え、雨の多いこの「つゆ」の時期を元気に楽しく過ごしていきたいと思います。



○ 七夕に願いを -1年生-

1年生は、七夕にまつわる本を読んでもらった後、一人一人が短冊に願い事を書きました。飾りもたくさん作りました。とても華やかな七夕飾りになりました。

子供たちの願い事の中には、「字をきれいに書けるようになりたい」「速く走れるようになりたい」「泳げるようになりたい」といった自分の成長を願うものや、「早く新型コロナウイルスがなくなってほしい」といった世の中全体の幸福を願うもの等様々でした。ほほえましい願い事や、優しい願い事、心温まる願い事全ての願い事がかなうといいなと思います。



○ 出前講座 -5年生-

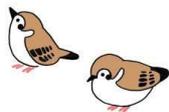
7月7日(火)に国土交通省伏木富山湾岸事務所から2名、射水市のみなとまちづくり係から2名の方を講師に迎え、5年生が「港と臨海道路事業の出前講座」を受けました。実際に見学して話を聞く予定でしたが、新型コロナウイルス感染症防止のため見学ができなくなったため、学校に来ていただいて話を聞く時間を設けました。島国である日本にとっての港の役割について丁寧に教えていただきました。最後には、学んだことのクイズもあり大いに盛り上がりました。

～子供たちの感想～

- ビックリしたことは、コンテナ船がコンテナを840個も積めるということです。理由はコンテナはとても重いのに、海に沈まないからです。それに、クレーンのあだ名が「みなとのきりん」だなんて初めて知りました。
- 外国との貿易を支えているのは港だと知りました。港は、私達の日常生活で食事や服等に大きく関わっていることが分かりました。港は色々な役割があることが分かりました。



○ 金山には生き物がいっぱい



しばらく前は「むくどり」が枇杷の実を求め毎日のように訪問していました。実がなくなり来なくなったなと思っていたら、次は5年生教室のベランダに「雀」が巣作りを始めました。生き物が大好きな5年生は巣をつくるために往き来する親鳥の様子に夢中でした。あっという間に出来上がりその速さにビックリでした。野鳥のことに詳しい「ねいの里の先生」に相談したところ、先生からは「巣がベランダにあることには問題なく、ツバメと同じように雛を育てるためにつくっているものです」と教えていただきました。巣が仕上がった後は、親鳥の往き来も少なくなりました。巣の中には新しい命が誕生しているかもしれません。雛のかわいい鳴き声が聞こえてくるのが楽しみです。



○ 1人1台のタブレットに向け



新型コロナウイルスの感染拡大を受けて臨時休校が続いたこと等から、1人1台、タブレットを配り、遠隔で教育が受けられるような環境の整備を急ぐ考えが示されたことはもうご存知かと思います。そこで、本校でも1度にたくさんの人数がタブレットを快適に使えるようLANケーブルの工事が始まりました。環境が整うことで遠隔教育の他に学習の幅も広がりそうです。

